

指定管理者評価シート

事業名	札幌コンサートホール運営管理費	所管課（電話番号）	市民文化局文化部文化振興課（211-2261）
-----	-----------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌コンサートホール	所在地	中央区中島公園1番15号
開設時期	平成9年7月	延床面積	20,746.14㎡
目的	音楽の鑑賞その他音楽に関する活動の場を提供すること及び音楽に関する事業を行うことにより、音楽芸術の振興及び音楽を通じた国際交流の推進を図ることを目的とする。		
事業概要	ホールやリハーサル室等、施設の管理運営。 音楽芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	大ホール、小ホール、大リハーサル室、小リハーサル室A、小リハーサル室B		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 札幌コンサートホールは札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、音楽芸術の振興及び音楽を通じた国際交流を図る多様な事業を引き続き実施していく等のためには、指定管理者には専門的な知識や経験、幅広いネットワークが必要となる。また、管理運営にあたっては長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などを特に必要とするほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行うことが必要であることなどから、非公募とした。		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

Ⅱ 令和7年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括 管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 今期（令和5年～9年）指定管理より、財団の中期経営計画を定めるとともに、当ホールの管理運営については次の6つの基本方針を策定している。 (1) 「質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供」 (2) 「誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールへ」 (3) 「札幌の音楽文化の未来を見据えた育成、支援」 (4) 「他分野との連携を広げ、札幌の音楽文化をあらゆる分野へ」 (5) 「利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供」 (6) 「安心・安全で、持続可能な社会に貢献できる施設運営」 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼ 「札幌市の公の施設として、公平性を重視した運営を行う」という方針を策定し、条例・規則等に基づく公正な利用申込機会の提供や、音楽専門家などの学識経験者も含む貸館審査委員会による公平・公正な審査を実施した。 ▼ 施設申込は、公平性を重視した一斉受付を行う他、先着順による随時受付に移行後はホームページで空き状況を公開し、平等かつ公平な利用機会を提供した。併せて、利用に関する重要事項（利用料金の改定及び改修工事に伴う休館）についてもホームページ等により広く周知に努めた。 ▼ 札幌市の音楽文化の振興、発展のために重要であり、市民要望の強いアーティスト等の公演及び長期間の準備期間が必要となる公演については、一般利用に先立っての申請が可能な制度により、貸館審査委員会に諮り対応した。	これまで、基本方針を施設の設置目的を実現するための行動指針としつつ、中期経営計画の取組項目も重点課題と認識し、管理運営及び事業構築を行い、適正に指定管理業務を遂行している。今後も当該指針等を踏まえ、適正な管理業務を実施してまいりたい。 条例や規則、要領等に基づいた公平な利用機会の提供に努め、利用者が重要な情報等を迅速に入手できるよう、広く周知を図った。	A B C D ホール運営に関する職員の能力向上に向けた研修を実施しているほか、施設運営協議会や連絡会を定期的に開催し、関係者間での情報共有を行うなど適切な施設管理に努めている。 また、大規模改修工事に伴う施設休館の周知のほか、利用料金の改定について、迅速かつ丁寧な市民周知をはじめとした適切な対応をしている。 さらに、継続した環境配慮を実践し、これにより環境対策と経費削減の両面において効果を上げている。 以上のとおり、本市の要求水準を満たす適正な運営管理を行っている。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ エネルギー管理標準（平成18年制定、令和3年改訂）の規定に基づき、省エネルギーに取り組んでいる。
省エネルギー推進委員会を設け、定期的に省エネルギー推進活動の検討を行っている。

▼ 令和4年度に変更した北海道電力との需給契約電力（高圧、1000KW）を維持し使用電力の低減に努めた。

▼ 設備委託業者の業務日誌などで使用量を日々確認し、省エネルギー化の推進を図り電気使用量は約2%減となった。一方、ガス使用量は令和7年度12～1月の降雪量が多くロードヒーティングの稼働率が高かったことから、使用量が大きく増加し、前年度と同等となった。

▼ 札幌市環境マネジメントシステムに則り、各種報告を行った。

▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）

▼ コンサートホール事業部長（支配人）を施設の統括責任者として配置している。また効率的な運営を行うため、責任体制の明確化を図るとともに、事業の特性を考慮した職員配置を実施している。

▼ 人事異動などにより変更となった業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。

▼ 令和6年度からホール運営知識向上研修としてホールの設計・建設に携わった方による講義を実施し、施設の歴史、構造を学び、お客様案内等に活用した。
その他、基礎的、専門的な知識向上のために各種職員研修を実施したほか、外部団体主催の研修にも職員を派遣した。

- ・ 4月 新採用研修
- ・ 6月 コンプライアンス研修
- ・ 7月 クラシック研修
- ・ 7～9月 情報セキュリティポリシー研修
- ・ 8月 不当な差別的取扱防止のための研修
- ・ 9～11月 パソコン研修（Excel・Illustrator）
- ・ 11月 札幌市公式ホームページ担当者レベルアップ研修
- ・ 11～12月 ビジネススキル研修
- ・ 12月 管理職マネジメント研修
- ・ 12月 情報セキュリティポリシー研修（個別指導）
- ・ 12～1月 普通救命講習
- ・ 2月 ホール運営知識向上研修
- ・ 2月 コンプライアンス研修
- クラシック研修Ⅱ

日常的に使用状況を確認し、実施可能な省エネルギー化を進め、電気・ガス使用量の削減を図った。使用量は天候や気温に大きく影響を受けるが、状況に併せた細やかな運転を行い、可能な限り削減に努めた。

適切な職員配置を心がけることで安定した施設管理と業務の効率化を図るとともに、魅力ある主催事業を企画し、質の高い音楽鑑賞の機会を提供できた。

令和7年度は従来の研修のほか、個人情報の取り扱いに関する研修を強化して実施した。オンライン研修に加え、所属長から個別指導による研修も行い、問題意識の醸成、事故防止に対する意識徹底に取り組んだ。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 財団内LANによるグループウェアを活用し、事業部内、さらに財団全体で情報を共有している。また、財団共用の予算執行、決算管理等経理システムにより、経理事務を効率化し迅速な処理を行っている。併せて、令和7年度は財団4施設において施設予約システムの更新・統一を行い、利用者の利便性向上を図った。

▼ コンサートホール単独のグループウェアも併せて活用し、職員のほか委託業務スタッフ（清掃、警備、設備、舞台、レセプションスト）にも公演やホール内施設の詳細な情報について連絡事項の共有を図っている。接客の際に必要な細やかな情報共有に努めた。

▼ 朝礼の実施により、係ごとの業務連絡など日々の最新情報をホール職員内で共有できるよう取り組んだ。

▼ 役職者会議や各係会議を定例的に開催し、業務の進捗を確認するほか、ホールの諸課題についても検討を進め、改善に取り組んだ。

▼ 火災などの災害に迅速に対応できるよう、年2回の防災訓練を実施したほか、地震の発生が多かったことから、危機管理マニュアルを再確認することなどの周知を図った。

▼ 防火管理委員会を定例的に開催し、防火・防災管理の向上に取り組んだ。

会議の実施やグループウェアの活用により、事業部内のみならず財団全体で情報を共有し、業務の円滑化に努めた。

新施設予約システムの導入により、財団全体としての貸館業務の効率向上と利用者の利便性向上を図ることができた。システムの改修は来年度も継続して行う予定である。

年2回の防災訓練で、避難誘導がスムーズに実施できているか検証することができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

▼ 施設の安全運営に努め、専門技術・資格・経験を持つ人材を確保した。委託の際には、施設の安全と快適な利用に繋がるよう努め、委託者・受託者側双方に責任者を置き、監督と履行確認を行った。再委託を行うにあたっては、指定管理の協定書に基づき札幌市の承認を受け実施した。

高度な技術と知識を有する人材を確保することにより、適切な点検を行うとともに、突発的なトラブルに対し迅速に対応できる体制を整えた。また、委託業者との綿密な連絡・報告を活用することにより、施設を適切に管理することができた。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

開催回	協議・報告内容
第1回 令和7年 6月11日	・令和6年度事業報告 ・4月～5月の施設利用状況 ・令和7年度主催事業に関する報告 ・ホール改修工事について ・施設見学会の実施について ・Kitaraギャラリー「PMF」展について ・令和7年度ホールスポンサーについて
第2回 令和7年 9月24日	・4月～8月の施設利用状況 ・主催事業に関する報告 ・Kitaraアルザスワインの販売について ・Kitaraギャラリー「能藤玲子×砂澤ビツキ」展について ・第26代専属オルガニストの就任について
第3回 令和7年 12月25日	・4月～11月の施設利用状況 ・主催事業に関する報告 ・ホール改修工事について ・演奏会付き防災訓練について ・施設見学会の開催について ・新施設予約システム開始について
第4回 令和8年 3月25日	・4月～2月の施設利用状況 ・主催事業に関する報告 ・ホール改修工事について ・演奏会付き防災訓練の実施報告 ・Kitaraギャラリー「ショスタコーヴィチ展」について ・カワイピアノ「SK-EX」導入について
<協議会メンバー> （地域）山鼻地区連合町内会会長 （利用者）キタラボランティア代表、オルガニスト、 ピアニスト、音楽事務所代表 （行政）札幌市市民文化局文化部長 （指定管理者）札幌コンサートホール事業部長（支配人）	

外部委員のさまざまな立場からの助言を踏まえ、利用者や地域住民の声を把握できたことにより、管理運営上の課題の改善につなげることができた。

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第 1 回 (8月7日)	(1) 各施設の重点取組事項について (2) 議題 ①令和8年度予算要求に向けて ②出資団体評価について ③委託費補填の次年度以降の予算について 当財団における委託費補填の取扱と次年度以降について ④50万円以上の修繕・設備投資の取扱について 当財団の修繕・設備投資の規模と今後の財団収支の影響について (3) その他意見交換
第 2 回 (12月16日)	(ホールより) (1) 令和7年度の予算執行見込と事業実施状況について (2) 令和7、8年度の事業展開について (3) 取組における評価指標の見直しについて ①大規模改修について ②光熱水費と委託費の補填継続 ③レセプション料金の改定 ④レストランの公園使用料減免 (文化部より) (1) 令和8年度コンサートホール関連事業と予算概要 (2) 大規模改修工事について

日頃から札幌市とは積極的に情報共有を図っている。連絡会においては利用料金の改定及び大規模改修工事等について緊密に情報交換を実施した結果、市民周知も円滑に行うことができた。

▽ 財務（資金管理、現金等の適正な取扱）

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。

▼ 預金通帳及び印鑑、金券類は、分任出納員による厳格な管理を行い、内部監査などで定期的な確認作業を行っている。

▼ 現金（現金収入、小口現金、両替現金）及び現預金の入出金については、分任出納員による厳格な管理を行うほか、複数の職員による確認を実施し、不適切な処理が行われないよう厳しくチェックを行った。また、内部監査による定期的な確認作業を行っている。

財務・収支状況を明確に把握しながら、適正な資金管理を行うことができた。現金を扱う場合については複数の職員による管理を行い、事故の防止を図っている。

▽ 要望・苦情対応

▼ 要望・苦情については報告書の作成、対応策の検討、職員への周知を徹底したほか、札幌市に関連する苦情等については所管課に相談し指示を仰いだ。

▼ 公演に関する要望・苦情については、レセプション、職員、主催者で連携を取り臨機応変に対応した。また、毎週のCS（顧客満足）会議や月1回のレセプションとの会議を通じて、お客様のご意見や要望等の情報収集・把握に努め、サービス向上や施設設備面での改善を行った。公式ホームページにはお問い合わせフォームを設け、要望や苦情等については電子メール等を通じて速やかに回答を行うとともに、施設運営協議会及び札幌市に報告した。

要望・苦情については、グループウェア等を活用して職員へ周知し再発防止に努めた。また、委託業者へは会議等を通じて情報共有を図り、組織全体での対応力向上につなげた。

	▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施） ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。 ・事業日誌等 ・管理業務に関する諸規定 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画書及び事業報告書 ・収支予算・収支決算に関する帳簿 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 ▼ セルフモニタリングについては、公演来場者や貸館利用者に対し紙媒体、WEBでアンケート調査を行った。また、年2回の業務検査、財務検査及び業務に関する自己チェックも実施した。要望・苦情等の対応は運営協議会で報告のうえ、委員からの意見・助言を受け、改善を要するものについては対応できる体制を整えた。 【利用者からの要望・苦情と運営協議会委員からの意見】 ・新たに導入したピアノ「SK-EX」について、広く利用者への周知を図るべきとの委員の意見があり、SNSを活用し周知を図った。 ・鑑賞マナーの啓発や公演終了後の園路混雑に関する利用者からの声に対し、マナー啓発に係る効果的なアナウンス内容等の確認を行った。 ▼ 事業等の報告や事業評価等については、協定の定めに応じて札幌市に提出した。	日誌やセルフモニタリング等で把握した利用者からの要望・意見については、データとして蓄積するとともに、運営協議会において情報共有及び意見交換を行った。	
--	---	---	--

(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A B C D
	▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、プロパー職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、プロパー職員については別途給与規程を定め明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っており、財団LANにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。 ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。 ▼ 産業医とともに労働災害の防止、職場環境の向上に努めるとともに、顧問弁護士とも委託契約を締結しており、心身の健康、労働・雇用関係等について相談に応じる体制をとっている。 ▼ 特別条項付36協定を締結するにあたり、法定の上限を下回る時間外労働の制限を設けている。また、定期的に開催する役職者会議で職員の超過勤務時間を確認するとともに、適正な時間外勤務の執行に取り組み、職員の健康管理の増進及び仕事と家庭の調和の実現（ワークライフバランスの推進）に努めた。また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業（ステップ3）として認証を受けているほか、4年計画で策定した次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。 ▼ 高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年（61歳）退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。 ▼ 通勤災害発生：1件 自転車通勤時に車道から歩道に移動しようとして転倒し、顔面及び右手を負傷。	36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務分配等に取り組んでいる。 雇用環境については、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。 また、育児中の職員を対象に「育児休業」の利用を促進し、働きやすい職場環境構築に努めることができた。	労働関係法令は適切に遵守されている。時期により業務量に差があるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、業務の効率化や人員体制の補強、育児休業制度の利用促進など様々な取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。一方で、通勤災害が1件発生しているため、引き続き安全衛生面の確保にも努めていきたい。

(3) 施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項（利用者等の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制の確保、保険加入） ▼ 日常における施設の維持管理については、来館者の安全を最優先に業務を行った。 ▼ 財団4施設において新施設予約システムの導入を行い、利用者が1つのアカウントで財団が指定管理する他施設の予約もできるようになった。 ▼ 令和10年度から予定されている大規模改修工事に向け、札幌市と連携しながら必要事項の検討を進めた。また、工事に伴う休館期間や工事概要等についてはHPや電話等で利用者に速やかな周知を図った。 ▼ 利用者に対しては、ホームページやパンフレット等において、必要な連絡先を記載するとともに、問合せフォームも用意し随時受付できる体制を維持した。また、緊急時に対応ができるよう緊急連絡網を整備した。 ▼ 施設損害賠償保険は、全国公立文化施設協会で運営する公共施設用に設計されたものに加入し、万一の事故に対応可能な体制をとっている。 ▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、施設・設備の保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等） ▼ 清掃や警備等の建物管理業務、電気設備や昇降機等の建物保守に関わる設備管理業務のほか、照明・音響・レセプションистなど、専門性を要するホール業務については第三者への委託を行い、ホールの運営に支障がないよう対応した。 ▼ 施設内備付備品は4カ年の点検計画を作成し、計画に則って点検を行うことで適切な管理に努めた。また、オルガンやピアノ等の楽器については、専門保守業者の意見を参考にしながら適切な管理を行った。 ▽ 防災業務 ▼ コンサートホール消防計画に基づき、8月と1月にホール職員、常駐委託業者等を対象とする法定防災訓練を実施した。 ・8月は昼間の小ホール公演及び小ホールA利用中に小ホール楽屋で出火したことを想定し、ホール職員と常駐業者(22名)による総合訓練を実施。 ・1月は札幌市消防音楽隊と協力し、一般市民から参加を募り、コンサート中の火災を想定した演奏会付き防災訓練を行った（参加者数370名） ・火災報知器、消火設備点検については9月と3月に実施。なお、令和8年1月13日からの3年間、防火対象物点検報告特例認定を受けている。	来館者の安全を最優先とした施設の維持管理に努めたほか、施設予約システム改修により、単館ではなく複数の施設検索・予約も行える等、利用者の利便性を高めることができた。 また、利用者の関心が高い大規模改修工事に関する情報については、札幌市と協力し利用者へ速やかな情報提供を行った。 施設が持つ機能を最大限に発揮し利用者の安全性を確保するため、計画的に保守点検を実施し、不良・危険箇所の補修を迅速行うことで利用者に対する安全、快適な環境を提供することができた。 公演中に地震や火災などの災害が発生する想定のもとで訓練を行い、火災及び危機に対する意識、対応能力の向上につながった。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 来館者からの問い合わせに迅速に対応できる体制を維持するとともに、関係法令を遵守し、保守点検についても、適切に実施している。 また、本年度より導入した施設予約システムにより、他施設の利用状況について照会、予約が可能となり、施設利用者の利便性向上を図っている。 加えて、ホール職員と委託業者のほか利用者参加型の防災訓練などにも継続して取り組んでいる。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	来館者からの問い合わせに迅速に対応できる体制を維持するとともに、関係法令を遵守し、保守点検についても、適切に実施している。 また、本年度より導入した施設予約システムにより、他施設の利用状況について照会、予約が可能となり、施設利用者の利便性向上を図っている。 加えて、ホール職員と委託業者のほか利用者参加型の防災訓練などにも継続して取り組んでいる。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
A	B	C	D								
来館者からの問い合わせに迅速に対応できる体制を維持するとともに、関係法令を遵守し、保守点検についても、適切に実施している。 また、本年度より導入した施設予約システムにより、他施設の利用状況について照会、予約が可能となり、施設利用者の利便性向上を図っている。 加えて、ホール職員と委託業者のほか利用者参加型の防災訓練などにも継続して取り組んでいる。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。											

(4) 事業の計画・実施業務	▽ 音楽の鑑賞会事業及び普及振興事業の実施に関する業務		A B C D
	〈音楽鑑賞事業〉 ▼ オーケストラシリーズ 大ホールの音響特性を活かし、世界的に著名なオーケストラ演奏の鑑賞機会を市民に提供した。 ①反田恭平&ジャパン・ナショナル・オーケストラ 北海道ツアー 2025 札幌公演 期日：令和7年9月11日（木）／入場者数：1,922人 令和6年に好評を博した反田 恭平&ジャパン・ナショナル・オーケストラを再度招へいし、反田氏の弾き振りによるモーツァルトのピアノ協奏曲 第23番やベートーヴェンの交響曲 第7番を披露した。また、当ホールから道内3館（北見、帯広、函館）に企画を提案し、初めて道内ツアーを実施した。 ②チョン・ミョンフン指揮 ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団 期日：令和7年9月20日（土）／入場者数：1,932人 イタリアの名門歌劇場のオーケストラ ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団と当楽団名誉指揮者を務めるチョン・ミョンフンを招へいし、世界各国で活躍するピアニスト 藤田真央をソリストに迎えてコンサートを開催。ラフマニノフのピアノ協奏曲 第2番やチャイコフスキーの交響曲 第6番「悲愴」を披露した。 ▼ ソリストシリーズ 器楽等の著名な演奏者（ソリスト）を招へいし、質の高い演奏を市民に紹介した。 ①鈴木雅明チェンバロリサイタル 期日：令和7年7月10日（木）／入場者数：415名 日本を代表する古楽器オーケストラ「バッハ・コレギウム・ジャパン」を創設し、世界的なバッハ演奏の第一人者である鈴木雅明によるKitara初のチェンバロリサイタルを開催し、J.S. バッハの作品をお話を交えながら披露した。 ②フランチェスカ・デゴ 無伴奏ヴァイオリンリサイタル 期日：令和8年1月18日（日）／入場者数：293人 パガニーニ国際ヴァイオリンコンクールでイタリア人女性初の受賞者として注目を集める人気ヴァイオリン奏者 フランチェスカ・デゴを招へいし、詩人である父の作品にインスピレーションを受けた委嘱作品などを披露した。 ③〈第28回リスト音楽院セミナー〉講師による特別コンサート (1) ミクローシュ・ペレーニ チェロリサイタル 期日：令和8年2月18日（水）／入場者数：388人 (2) ガーボル・ファルカシュ ピアノリサイタル 期日：令和8年2月20日（金）／入場者数：274人 リスト音楽院教授を務める世界的チェロ奏者 ミクローシュ・ペレーニのリサイタルでは、自作曲をはじめとしたプログラムを披露し、ピアノ共演には同音楽院副学長バラージュ・レーティを起用した。 リスト音楽院学長を務める世界的ピアニスト ガーボル・ファルカシュによるリサイタルでは、ベートーヴェンとリストの名作を披露した。	反田恭平&ジャパン・ナショナル・オーケストラ公演では、当館が調整役を担い道内ツアーを展開し、道内の音楽文化の振興に寄与した。ミラノ・スカラ座フィル公演においても、世界最高峰の芸術性に触れる貴重な機会を創出し、多くの市民から高い評価を得ることができた。いずれの公演もチケットは前売りにて完売した。 鍵盤楽器、弦楽器等の世界で活躍する一流アーティストを招へいし、その高い芸術性と魅力を広く市民に紹介したほか、当ホールが所有する貴重なチェンバロの活用を図ることができた。	国内外問わず、著名なアーティストや地元の演奏家など様々な分野で活躍する出演者を選考、招へいし、上質な演奏を市民に提供していることは、来場者からも好評を得ている。特に令和7年度は、道内各地のホールと連携した公演を主導して初開催し、道内における音楽文化振興の中心的な役割を果たしたことは高く評価する。 加えて、親子が一緒に参加できるコンサートや障がいのある子どもを対象とした公演を実施するなど、あらゆる人に音楽鑑賞の機会を提供する姿勢も高く評価する。 また、地元の学生等への演奏機会の提供や、指導者を育成するためのワークショップを新たに実施するなど、次世代の育成にも力を入れている。 以上より、本市の要求水準を上回る適切な管理運営が行われている。

▼ 室内楽シリーズ

室内楽で著名な演奏家・演奏団体を招へいし、小ホールの音響特性をいかした公演を実施した。室内楽の多彩な魅力を広く市民に紹介した。

① ザ・ベース・ギャング

期日：令和7年11月7日（金）／入場者数：368人

ローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団をはじめ、世界トップクラスのオーケストラのコントラバス奏者4名で結成されたザ・ベース・ギャングを招へいし、様々なジャンルの曲を披露し、初心者も楽しめる公演となった。

② 〈ハンガリーの俊英たちVI〉 サバディ・イルディコフルトリサイタル

期日：令和8年2月14日（土）／入場者数：227人

リスト音楽院との連携により、ハンガリーの優れた若きアーティストを紹介するシリーズの6回目。若くしてオーケストラの首席奏者を務めるなど活躍目覚ましいサバディ・イルディコのフルトリサイタルを開催し、共演者には、第22回リスト音楽院セミナーで審査員特別賞を受賞した荒川 浩毅を起用した。

〈音楽普及事業〉

▼ ホール開放事業 Kitaraあ・ら・かると

3日間にわたり演奏会や見学会、体験イベントなど音楽を楽しむプログラムを実施するゴールデンウィークの音楽祭。クラシック音楽の普及と、ご家族で気軽にコンサートホールに来ていただくことを目的とし、未就学児が入場可能なコンサートも実施した。

期日：令和7年5月3日（土・祝）～5日（月・祝）

① きがるにオーケストラ／入場者数：1,082人

② スプリング・ブラス～中学生スペシャル！／入場者数：970人

③ ファニーさんのオルガンコンサート～星をめざして～／入場者数：839人

④ 3歳からのコンサート

(1) ピアノ＆フルート＆絵本／入場者数：427人

(2) ピアノ／入場者数：392人

(3) ソプラノ＆バリトン＆ピアノ／入場者数：429人

⑤ オルガン職人といっしょに！手づくり小型オルガンをさわろう／来場者数：868人

⑥ 無料ミニコンサート／来場者数：353人

⑦ 楽器づくり体験／来場者数：542人

⑧ Kitaraあ・ら・かると見学ツアー Kitara地下探検隊／入場者数：50人

⑨ Kitara子どもスタッフ～レセプションに挑戦！／参加者数：6人

世界の第一線で活躍する音楽家から、将来の活躍が期待される若手アーティストまで、室内楽の多彩な魅力を広く市民に紹介するとともに、リスト音楽院セミナー審査員特別賞を受賞した若手演奏家に活動の場も提供することができた。

ファミリー層を中心に多くの方が来館し、公演鑑賞のほか、各種体験を通じて市民に音楽及びキタラを身近に感じていただくことができた。また、出演者に地元音楽家を起用し、ホールの出演機会を提供し、演奏レベルの向上を図ることができた。

▼ オルガン事業

国内最大級のパイプオルガンと専属オルガニスト制度を活用し、子どもから大人まで時節のイベントを取り入れたオルガン音楽を楽しむコンサートを行った。

①ファニーさんのオルガンコンサート～星をめざして～（再掲）

②Kitaraのバースデイ

期日：令和7年7月5日（土）

(1)まずはここから公演／入場者数：1,554人

(2)もっとじっくり公演／入場者数：1,065人

「Kitaraのバースデイ」では、0歳児を含む未就学児が入場可能な「まずはここから公演」とオルガン好きな方に向けた「もっとじっくり公演」の2公演を実施し、幅広い層を対象にオルガンの魅力を伝えた。

③〈三城美装株式会社presents〉第25代札幌コンサートホール専属オルガニスト ファニー・クソー フェアウェルオルガンリサイタル

期日：令和7年8月23日（土）／入場者数：936人

④〈株式会社東洋実業presents〉第26代札幌コンサートホール専属オルガニスト 赤枝サンテソソ留果デビューリサイタル

期日：令和7年10月11日（土）／入場者数：784人

⑤〈JALpresents〉クリスマスオルガンコンサート

期日：令和7年12月21日（日）／入場者数：1,569人

「〈JAL presents〉クリスマスオルガンコンサート」では、専属オルガニストと市内高校合唱部との共演のほか、第27回リスト音楽院セミナーにて審査員特別賞を受賞した地元高校生をゲストに迎え、ヴァイオリンと合唱の共演も行った。また、開場中には冠スポンサーであるJALベルスターによるハンドベルのプレコンサートも実施した。

⑥〈株式会社クリーンコーポレーションpresents〉オルガンウィンターコンサート

期日：令和8年2月7日（土）／入場者数：1,489人

⑦オルガンCD制作

専属オルガニストを活用したプログラムから未就学児も楽しめるプログラムまで、幅広い内容でオルガンファンの増加に努めた結果、オルガン公演の入場者が増加している。また、スポンサーの支援により公演を実施し、収支の改善に取り組んだほか、観光分野との連携を図りまちの活性化に寄与することができた。

▼ 札幌オーケストラシリーズ

季節のイベントにふさわしい家族で楽しめるコンサートを開催し、オーケストラの魅力を伝えた。

①きがるにオーケストラ（再掲）

②Kitaraのクリスマス

期日：令和7年12月20日（土）／入場者数：1,107人

札幌出身の指揮者 横山 奏と高校生ヴァイオリニストをソリストに迎え、クリスマスを彩るプログラムを披露した。また、普段、外出や鑑賞の機会に限られる高齢者に向けて音楽を通して心の癒しや活力を与えることを目的として、札幌市保健福祉局の協力のもと、市内シニア向け施設等（約700施設）に公演映像の配信を行った。

③Kitaraのニューイヤー～オペラアリア名曲選～

期日：令和8年1月10日（土）／入場者数：1,503人

日本を代表するオペラ歌手3名をソリストに迎え、新年の幕開けにふさわしい華やかなプログラムを実施した。また、開場中、専属オルガニストによる演奏でポジティブオルガンのロビーコンサートも実施した。

▼ Kitaraアフタヌーンコンサートシリーズ

初めてクラシック音楽に触れる方にも、これまでホールに足を運んでくれたKitaraファンにも楽しんでもらえる多彩な内容と来場しやすい時間設定により、多くの市民に親しまれるコンサートを開催した。

今年は、生誕340周年を迎えたJ. S. バッハをテーマに、各公演でバッハの作品を演奏し、これら3公演を通して鑑賞できる「アフタヌーンセット券」を販売したところ、アフタヌーンセット券は前売りにて完売となった。

また、財団他施設とも連携し、音楽と美術の融合したプログラムを実施した。また、館内レストランと連携した割引特典も行い、コンサート以外の楽しみも提供できた。

①Kitara×札幌芸術の森連携事業 金子三勇士ピアノリサイタル～芸術の森を歩いて～

期日：令和7年9月28日（日）／入場者数：724人

芸術の森事業部との連携事業として、金子 三勇士が芸術の森野外美術館を訪れ、展示されている彫刻作品から連想した楽曲を彫刻作品の映像とともに演奏した。

②朴葵姫ギターリサイタル

期日：令和7年10月25日（土）／入場者数：408人

多くの国際ギターコンクールで功績を残しているクラシックギタリストの朴葵姫を招へいし、出演者のトークを交えながらギター作品の名曲を披露した。

③浜松市・札幌市音楽文化都市交流事業 第12回浜松国際ピアノコンクール優勝／札幌市長賞受賞者 鈴木愛美ピアノリサイタル

期日：令和7年11月22日（土）／入場者数：394人

浜松市と札幌市との間で平成21年に調印された「音楽文化都市交流宣言」に基づき開催されており、両市の交流促進に寄与している。

地元及び若手音楽家や、日本を代表するオペラ歌手を起用する等、多彩なプログラムを提供し、地元オーケストラの魅力を存分に伝えることができた。

今年度初めて実施したシニア向け施設の動画配信では、音楽を楽しむ機会の提供という目的は達成できたが、活用されたのが限定的だったことから、今後の実施方法について検討していく。

多様なジャンルの公演提供のほか、演奏の合間に出演者のトークによる楽器や作品の紹介など、音楽の魅力を多角的に伝えるプログラムとなった。

札幌芸術の森との連携事業では、音楽と美術という異なる芸術分野を融合することで、新たな層へアプローチし、芸術鑑賞の裾野を広げることができた。様々な工夫を取り入れ、来場者の増加を図った。

▼ 地元音楽家・音楽団体との活動支援・連携事業

札幌市内で活動する演奏家、音楽団体及び道内の音楽大学とともに、札幌独自の音楽公演事業を行い、演奏家のレベルアップと聴衆づくりに努めた。

①〈北海道教育大学・札幌大谷大学・Kitara連携事業〉若い芽の音楽会

期日：令和7年12月6日（土）／入場者数：201人

北海道教育大学及び札幌大谷大学と連携し、各校から推薦を受けた卒業生・在校生による「若い芽の音楽会」を実施した。ソロやアンサンブルなど、優秀な若手演奏家による演奏を披露した。

②Kitaraアーティスト・サポートプログラム

イーゴリ・ストラヴィンスキー作曲「兵士の物語」

期日：令和8年1月28日（水）／入場者数：181人

市民から公演企画を公募する「Kitaraアーティスト・サポートプログラム」では、4団体の応募があり、ストラヴィンスキーの「兵士の物語」公演の1企画を採択し、北海道を中心に活動する若手音楽家たちが創意工夫を凝らしたコンサートを開催した。

また、新たに応募前に、スタッフが応募にあたっての様々な相談に応じる相談会を実施した。

③〈Kitara&札幌音楽家協議会連携プロジェクト

札幌の音彩（ねいろ）Ⅲ～春をつげる北のアーティストたち～

期日：令和8年3月21日（土）／入場者数：394人

札幌音楽家協議会とのプロジェクト「札幌の音彩（ねいろ）Ⅲ」の最終年となり、国内の様々なオーケストラと共演を重ねる札幌出身の横山 奏の指揮で室内オーケストラと女声合唱、2台ピアノのための協奏曲など、これまでの活動の成果を披露した。

地元の学生に学びの成果を披露する場を提供し、次世代の演奏家育成を図った。また、地元音楽家の活動を支援し、地域の音楽文化の活性化と演奏家のレベルアップに寄与することができた。

「Kitaraアーティスト・サポートプログラム」では相談会を実施した結果、応募につながった公演もあり、応募者の不安を取り除く一助となり、活動の支援に繋がった。

▼ 社会包摂事業

文化芸術施設に来館する機会の少ない方々にも音楽の楽しさを届けることができる親子向け、障がい児童向けの事業を実施した。

① 0歳からのコンサート 絵本deクラシック

期日：令和7年6月7日（土）／入場者数：1,827人

0歳から鑑賞可能な親子で楽しめるコンサートとして、絵本アニメーションをスクリーンに投影し、声優による絵本の朗読と金管楽器、ピアノの生演奏による「絵本 de クラシック」を開催した。チケットは完売し、当日は親子連れで賑わった。

② 子どものためのKitara参加型音楽会&音楽家育成ワークショップ
期日：令和7年9月3日（水）、4日（木）

(1) 音楽会

① 午前の部（聴覚障がい）／68人

② 午後の部（肢体不自由）／29人

③ 午前の部（知的・言語及び情緒障がい、視覚障がい）／381人

(2) 音楽家育成ワークショップ／28人

※ 引率教諭、見学者を含む

文化芸術施設に来館する機会が少ない市内の特別支援学校および支援学級に通う児童を対象に、ピアノ、フルート、パーカッションの演奏に歌を交え、手拍子や身体を使った音楽会を実施。令和4年度から段階的に対象を拡大し、身体障がい、知的障がい、聴覚障がいのある児童のほか、今年度から視覚障がいも対象に含め全3公演を開催した。さらに今後の継続的な実施を視野に指導者養成の観点から、市内音楽家や音楽を学ぶ学生を対象とした育成ワークショップを初めて実施した。

0歳からのコンサートでは、大型スクリーンを使って視覚的にもわかりやすくなるよう工夫し、子どもの興味が持続し、親子で音楽を楽しめる機会の提供ができた。

子どものためのKitara参加型音楽会では、毎年、子どもたちが親しむことができるテーマに沿った選曲、プログラムの改良を加えており、今年度も障がいの有無に関わらず、音楽を体全体で体験する場を創出することができた。また、育成ワークショップでは、講師によるワークショップ体験や質疑応答を実施し、音楽を通じて自分たちができること等を考えるきっかけを提供することができた。今後もアドバイザー等と協力して効果的な事業の検討を進める。

▼ 他事業部との連携事業

財団各施設と連携し、各施設の特色を生かした多彩な事業を実施した。

①〈札幌市民ギャラリー&Kitara連携事業〉スプリングコンサート～ポジティブオルガンとヴァイオリンの調べ～

他事業部との連携事業として令和4年度から継続して実施している事業。Kitaraのポジティブオルガンを使って専属オルガニストと北海道出身のヴァイオリニストのお話付きの無料コンサートを市民ギャラリーで実施した。

②〈Kitara×札幌芸術の森連携事業〉金子三勇士ピアノリサイタル～芸術の森を歩いて～（再掲）

〈教育・人材育成事業〉

▼ エデュケーションプログラム

子どもたちの感性を伸ばし、能力を引き出す事業を実施した。

①Kitaraあ・ら・かると（再掲）

②0歳からのコンサート絵本deクラシック（再掲）

③Kitaraのバースデイ（再掲）

④Kitaraファースト・コンサート

期日：令和7年9月25日（木）、26日（金）、10月28日（火）、29日（水）、11月10日（月）、11日（火） 全10公演／入場者数15,522人

札幌市教育委員会と連携して市内全小学6年生及びさっぽろ連携中枢都市圏の小学6年生を無料招待し、パイプオルガンとオーケストラの演奏を鑑賞するコンサートを実施した。今年度には参加児童数が延べ30万人を超えた。また、事後学習教材として施設や楽器の豆知識、コンサートマナーなどを学ぶことができる「キタラかるた」を作成し学校に配布した。

▼ アウトリーチ事業

演奏家が公共施設や学校等に赴き、生の音楽の魅力と楽しさを間近で伝える事業を実施した。

①〈札幌市民ギャラリー&Kitara連携事業〉スプリングコンサート～ポジティブオルガンとヴァイオリンの調べ～（再掲）

②学校DEカルチャー オルガンアウトリーチコンサート

期日・会場：令和7年10月23日（木）・札幌市立米里小学校／参加者数79人

令和7年11月27日（木）・札幌市立前田中央小学校／参加者数74人

札幌市文化局と連携し「学校DEカルチャー」企画の一環として、移動可能なポジティブオルガンとともに小学校へ赴き、専属オルガニストによる演奏で生の音楽の魅力と楽しさを伝えた。

それぞれの特色を活かした連携により、来場者に新たなジャンルの芸術との出会いをもたらすことができ、芸術文化人口の拡大に繋がったほか、各施設のお客様に当ホールの魅力を提供することができた。

ホールで本格的な生の演奏に触れる機会の提供は、子どもたちの豊かな感性や想像力を育むことに繋がった。また、「キタラかるた」の作成は公演鑑賞後も児童の興味・関心を湧き立たせ、ホールのことをより深く知ってもらう機会となり、今後の来場を促す取り組みとして有効であった。

オルガン伴奏による校歌の斉唱、音色が何を表しているのか考えるクイズなど、参加型プログラムにより、音楽への親近感の創出、オルガンによる「生」の音楽を楽しむ機会の提供等、音楽が持つ魅力を子ども達に届けることができた。

▼ セミナー事業

世界的音楽教育機関や地元音楽大学と連携し、講習会や演奏会を開催した。

①〈札幌大谷大学・Kitara連携事業〉

パイプオルガン特別講義&体験レッスン

【講義】令和7年5月22日(木)／参加者数181人

【体験レッスン】令和7年6月17日(火)／参加者数16人

専属オルガニストを講師として、地元の音楽大学生を対象にパイプオルガンの基礎知識や楽譜の読み解き方などについて、デモンストレーション演奏を交え解説する事業を一般にも開放して実施した。また、希望者には講師による体験レッスンを実施した。

②第28回リスト音楽院セミナー

期日：令和8年2月18日(水)～23日(月・祝)／セミナー受講生40人、聴講生39人

【イベント】

(1)〈ハンガリーの俊英たちⅥ〉サバディ・イルディコフルトリサイタル(再掲)

(2)講師による特別コンサート(2公演)(再掲)

(3)〈札幌大谷大学・Kitara連携事業〉特別レクチャー&公開レッスン

期日：令和8年2月22日(日)／入場者数：80人

(4)受講生コンサート

期日：令和8年2月23日(月・祝)／入場者数：161人

ハンガリーの伝統ある世界的な音楽教育機関「リスト音楽院」と連携しホール開館時から実施している「リスト音楽院セミナー」を開催した。世界的な音楽家による指導を直接受けられるセミナーとしてピアノコースとチェロコースを開講し、全国各地から幅広い年齢層の参加があった。セミナー最終日には、講師の推薦を受けた受講生が出演するコンサートを開催し、令和9年にハンガリーで開催されるコンサートに出演する最優秀受講生のほか、審査員特別賞1名が選出された。

▼ 地元音楽大学等との連携事業

音楽学科を設置している地元大学と連携し、未来の音楽家を目指す学生の活動を支援し広く市民に紹介した。

①〈札幌大谷大学・Kitara連携事業〉パイプオルガン特別講義&体験レッスン(再掲)

②〈北海道教育大学・札幌大谷大学・Kitara連携事業〉若い芽の音楽会(再掲)

③〈札幌大谷大学・Kitara連携事業〉第28回リスト音楽院セミナー特別レクチャー&公開レッスン(再掲)

リスト音楽院セミナーでは、日々のレッスンに加えて2夜連続の講師による特別コンサート、レクチャーなど、世界水準の指導者、音楽家である講師によるプログラムを実施した。開館から構築してきた音楽院との協力体制によって、若手演奏家が世界的な音楽家の指導を受けられる機会を提供したほか、札幌及び日本とハンガリーとの文化芸術交流にも寄与している。

専属オルガニストによる講義及びリスト音楽院教授を講師に迎えてレクチャーを実施することにより、大学のカリキュラムに多角的な学びを提供することができた。

〈全国ホール等とのネットワーク事業〉

▼ ホール・他都市連携事業

全国・全道のホールと連携して、魅力的な公演を実施し、音楽文化振興を図った。

①浜松市・札幌市音楽文化都市交流事業 第12回浜松国際ピアノコンクール優勝／札幌市長賞受賞者 鈴木愛美ピアノリサイタル（再掲）

▼ 札幌コンサートホールが招へいする音楽家を他都市に紹介
札幌コンサートホールが招へいする音楽家及び専属オルガニストを他都市・他団体に紹介し公演を実施した。

①専属オルガニストによる公演

(1) ファニー・クソーオルガン・リサイタル～From 札幌コンサートホールKitara～（栃木県）

期日：令和7年6月28日（土）／入場者数：235人

(2) オール・バッハ名曲選！！真夏のオルガンコンサート2025（大阪市）

期日：令和7年8月2日（土）／入場者数：783人

②反田恭平&ジャパン・ナショナル・オーケストラ北海道ツアー2025

(1) 北見公演

期日：令和7年9月9日（火）／入場者数：1,283人

(2) 帯広公演

期日：令和7年9月10日（水）／入場者数：1,304人

(3) 函館公演

期日：令和7年9月13日（土）／入場者数：1,262人

③〈ハンガリーの俊英たち〉招聘アーティストによる公演

(1) 札幌音楽家協議会・ハイメス国際交流コンサートRezonancia 共鳴vol.4

期日：令和8年2月11日（水・祝）／入場者数：152人

全国の類似ホール等と共同での事業企画制作及び情報交換により、海外からのアーティスト招へいを含めた多様な音楽プログラムを実施し、事業費用の削減も図ることができた。

専属オルガニストの派遣では、当ホールのPR及び全国他ホールとの交流促進にも繋がったほか、オルガン音楽の普及振興にも寄与することができた。

また、当ホールが主導し、単独招へいが困難な地方都市（北見、帯広、函館）のニーズに応えた道内ツアーは各地で大きな反響を呼び、道内唯一のクラシック専用ホールとして道内の音楽文化振興を牽引した。

▼ 国内ホールとの情報交換

全国の公共ホールと定期的に情報交換を行った。

①コンサートホール企画連絡会議

期日：令和7年7月（福岡）、令和8年3月（京都）

▽ 音楽芸術に関する情報収集及び提供に関する業務

▼ Kitaraギャラリーにおける展示

Kitaraギャラリーでのホール資料や収蔵品展示により、ホールの魅力を紹介した。また、公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会や札幌文化芸術交流センターSCARTSと連携し、多彩な芸術文化の発信をした。

(1) アニヴァーサリーイヤーの音楽家たち2025

期日：令和7年1月5日（日）～6月29日（日）／入場者数：1,627人（令和7年度分）

(2) PMFアカデミーの指導者たち

期日：令和7年7月9日（水）～10月13日（月・祝）／入場者数：1,083人

(3) 札幌文化芸術交流センターSCARTS・札幌コンサートホール連携事業「能藤玲子×砂澤ビッキ」

期日：令和7年10月26日（日）～令和8年2月1日（日）／入場者数：791人

(4) 生誕120年 ショスタコーヴィチの時代と音楽家たち

期日：令和8年2月7日（土）～6月28日（日）／入場者数：451人（令和7年度）

▼ 施設見学会等の実施

(1) 6回 210人（学校等団体による施設見学）

(2) 3回 144人（施設見学会）

コンサートホールのPR及びKitaraファン拡大のため募集型の施設見学会を実施したほか、学校等各団体からの要請に応じた施設見学の実施も行った。

ホールが所有する資料及び収蔵品の展示のほか、他事業部との連携による展示により、ホール来館者に音楽・美術等多様な芸術を紹介することができ、市の芸術人口拡大の一助となった。

施設見学会には多くの応募があり、市民から当ホールの活動等に興味・関心を持っていただくことができた。

▽ その他コンサートホールの設置目的を達成するために必要な業務

▼ 公演チケット及びオリジナルグッズの販売

Kitaraチケットセンターを設置し、窓口、電話及びウェブでチケット販売を行った。加えて、ホームページ内のチケット購入方法ページを改良し、購入手順の説明動画をSNSで配信するなど、チケット購入の利便性向上と販売促進を図った。

また、ホールにより親しみを感じていただけるよう制作したオリジナルグッズや季節限定のワインの販売を行ったほか、財団他施設等のオリジナルグッズの受託販売を行い、商品ラインナップの充実を図った。

チケット販売では、ウェブ購入の需要が高まっていることから、購入方法を分かりやすく示すことでサービス向上を図り、販売促進につなげることができた。

オリジナルグッズについては、来館記念としての需要を踏まえ、より魅力的な商品販売し、ホールのPRに取り組むことができた。

▼ ホール支援組織「Kitaraボランティア」との連携

札幌コンサートホール支援組織による「Kitaraボランティア」との連携により、主催事業等の充実やKitaraのPR活動を図った。

令和7年度ボランティア人数：100人

活動内容及び年間活動実績：

- ・ダイレクトメール発送活動（24日）
- ・ホール見学会案内（12日）
- ・Kitaraギャラリー運営補助（156日）
- ・主催事業補助（9日）
- ・専属オルガニストサポート（2日）
- ・音楽情報誌「シンフォニア」の編集・発行（12回）

令和6年度に引き続き、Kitaraボランティア登録者数は100名を維持し、円滑に各活動を遂行することができた。また、ボランティアの活動は、音楽を通じた市民の交流機会の提供や生きがいの創出にも寄与した。

▼ オンラインの活用事業

Kitaraアーティスト・サポートプログラムやリスト音楽院セミナーの応募方法について、郵送での申し込みのほかにオンラインフォームでの申し込みを実施した。また、子どものためのKitara参加型音楽会では、Kitaraへ赴くことが困難な学校に対してオンライン配信を行った。

Kitara参加型音楽会では、昨年に引き続き、不参加校へのオンライン配信を実施したが、活用されていない状況が見受けられたことから、配信方法や内容等、学校のニーズを捉え検討したい。

▼ 他事業部との連携事業（再掲）

①〈札幌市民ギャラリー&Kitara連携事業〉スプリングコンサート～ポジティブオルガンとヴァイオリンの調べ～（再掲）

②〈Kitara×札幌芸術の森連携事業〉金子三勇士ピアノリサイタル～芸術の森を歩いて～（再掲）

③〈Kitara×市民交流プラザ連携事業〉Kitaraギャラリー「能藤玲子×砂澤ビッキ」展（再掲）

	▽ 補助金交付の対象となる自主事業の実施に関する業務 ▼ Kitaraファースト・コンサート（再掲） ▽ パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF） 15公演（当ホール関係） 計11,033人 世界の若手音楽家を育てるPMFの主旨に賛同し、（公財）PMF組織委員会に共催している。 また、PMFと当ホールのそれぞれの会員組織である「PMFフレンズ」と「Kitara Club」会員に対し公演割引料金の適用、Kitaraギャラリー「PMFアカデミーの指導者たち」への展示協力等を実施したほか、PMFオリジナルグッズをホールのチケットセンターで取り扱い販売協力も行った。	PMFと協力し、国内外の若手アーティストが集まる音楽の祭典を共催し、ホールの設置目的である音楽を通じた国際交流の推進に寄与することができた。																																																																								
(5) 施設の利用等に関する業務	▽ 利用件数等 <table><tr><td></td><td></td><td>R6年度実績</td><td>R7年度計画</td><td>R7年度実績</td></tr><tr><td rowspan="3">大ホール</td><td>件数(件)</td><td>293</td><td>303</td><td>295</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>273,417</td><td>315,000</td><td>265,959</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>85.9</td><td>86.0</td><td>84.9</td></tr><tr><td rowspan="3">小ホール</td><td>件数(件)</td><td>254</td><td>261</td><td>238</td></tr><tr><td>人数(人)</td><td>44,565</td><td>60,000</td><td>50,634</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>74.3</td><td>76.0</td><td>71.4</td></tr><tr><td rowspan="2">大リハーサル室</td><td>件数(件)</td><td>302</td><td>286</td><td>321</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>78.8</td><td>73.5</td><td>78.9</td></tr><tr><td rowspan="2">小リハーサル室A</td><td>件数(件)</td><td>326</td><td>227</td><td>364</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>78.8</td><td>58.5</td><td>81.0</td></tr><tr><td rowspan="2">小リハーサル室B</td><td>件数(件)</td><td>401</td><td>296</td><td>445</td></tr><tr><td>稼働率(%)</td><td>90.0</td><td>71.0</td><td>90.6</td></tr><tr><td colspan="2">総入場者数（人）</td><td>317,982</td><td>375,000</td><td>316,593</td></tr></table> ▽ 不承認0件、 取消し14件、 減免0件、 還付10件 ▽ 利用促進の取組 ▼ 11月より新施設予約システムを導入し、札幌芸術の森・コンサートホール・札幌市民交流プラザの空き情報が確認可能となり、施設を横断的に確認できるようになった。また、利用者自身が申請状況を「マイページ」で確認可能となった。			R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績	大ホール	件数(件)	293	303	295	人数(人)	273,417	315,000	265,959	稼働率(%)	85.9	86.0	84.9	小ホール	件数(件)	254	261	238	人数(人)	44,565	60,000	50,634	稼働率(%)	74.3	76.0	71.4	大リハーサル室	件数(件)	302	286	321	稼働率(%)	78.8	73.5	78.9	小リハーサル室A	件数(件)	326	227	364	稼働率(%)	78.8	58.5	81.0	小リハーサル室B	件数(件)	401	296	445	稼働率(%)	90.0	71.0	90.6	総入場者数（人）		317,982	375,000	316,593	リハーサル室については、令和3年度より導入したWeb申請が定着し件数・稼働率の大幅な増加に繋がっている。一方ホールは目標には及ばないものの、貸館件数が増加していることから収入的には増加している。総入場者数は前年度に続き30万人を超えた一方、計画値は未達のため、新たに導入した施設予約システムを活用することで稼働率の向上を図るとともに、入場者数の確保に努める。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">大ホールは利用件数が前年度より多く、小ホールは利用件数が減っているものの、利用人数は前年度より大幅に増加した。また、WEB予約の定着により、各リハーサル室の稼働率は計画値を大幅に上回り、前年度よりも実績を伸ばした。今後は、新たに導入した施設予約システムを積極的に周知し、利用者の利便性向上に努め、ホールの稼働率向上につながることを期待する。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td></tr></table>	A	B	C	D	大ホールは利用件数が前年度より多く、小ホールは利用件数が減っているものの、利用人数は前年度より大幅に増加した。また、WEB予約の定着により、各リハーサル室の稼働率は計画値を大幅に上回り、前年度よりも実績を伸ばした。今後は、新たに導入した施設予約システムを積極的に周知し、利用者の利便性向上に努め、ホールの稼働率向上につながることを期待する。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
		R6年度実績	R7年度計画	R7年度実績																																																																						
大ホール	件数(件)	293	303	295																																																																						
	人数(人)	273,417	315,000	265,959																																																																						
	稼働率(%)	85.9	86.0	84.9																																																																						
小ホール	件数(件)	254	261	238																																																																						
	人数(人)	44,565	60,000	50,634																																																																						
	稼働率(%)	74.3	76.0	71.4																																																																						
大リハーサル室	件数(件)	302	286	321																																																																						
	稼働率(%)	78.8	73.5	78.9																																																																						
小リハーサル室A	件数(件)	326	227	364																																																																						
	稼働率(%)	78.8	58.5	81.0																																																																						
小リハーサル室B	件数(件)	401	296	445																																																																						
	稼働率(%)	90.0	71.0	90.6																																																																						
総入場者数（人）		317,982	375,000	316,593																																																																						
A	B	C	D																																																																							
大ホールは利用件数が前年度より多く、小ホールは利用件数が減っているものの、利用人数は前年度より大幅に増加した。また、WEB予約の定着により、各リハーサル室の稼働率は計画値を大幅に上回り、前年度よりも実績を伸ばした。今後は、新たに導入した施設予約システムを積極的に周知し、利用者の利便性向上に努め、ホールの稼働率向上につながることを期待する。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。																																																																										

(6) 付随業務	▽ 広報業務		A	B	C	D
	▼ 施設と主催事業に関する広報 (1) 多くの市民に届く広報展開 札幌コンサートホール及び主催事業を広く周知するため、多様な媒体を活用した広報活動を行った。 〈実施内容〉 ①ホームページ、SNS (X、Instagram) バリアフリーページの改修を行い、利用者の利便性向上を図った。また、ホームページ利用者の意見収集のためのアンケートでは、短時間で回答しやすいよう設問や内容等を見直した結果、回答数が大幅に増加した。なお、ウェブアクセシビリティは引き続き、適合レベルAA準拠を達成した。 ・令和7年度ホームページ利用者アンケート回答数：143件 (参考：令和6年度 63件) ・令和7年度ホームページアクセス件数：927, 187件 (参考：令和6年度 887, 568件) ②公演情報誌「KitaraNEWS」 札幌コンサートホール主催事業の公演情報及び特集記事や公演カレンダーを掲載した広報誌を発行した。 発行部数：延べ138, 000部 (6回発行) ③子ども向け広報 札幌市小中学校校長会、札幌市PTA協議会に協力を依頼し市内小中学校へのちらしを配布したほか、小学生を対象とした新聞への広告掲出を実施した。 ・市内小学校へのちらし配布：11回 ・市内中学校へのポスター配布：11回 ・道内小学生全員に配布される新聞への広告掲出：2回 ④その他 ・テレビCM放映：4回 ・ラジオ番組でのPR：12回 ・地下鉄南北線幌平橋駅電照広告の掲出 (年間) ・地下鉄南北線車内ツインステッカー掲出：12回 ・地下鉄南北線ドア横額面ポスター掲出：2回 ・地下鉄駅構内地下鉄ポスター掲出：24回 ・SNS広告：7回 (2) 観光客誘致のための広報 世界屈指の音響を誇るホールの認知度向上を目指し、国内外の観光客に向けた広報を実施した。 〈実施内容〉 ・市内で開催される観光イベントと連携した広報：3回 (さっぽろオータムフェスト、ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo、さっぽろ雪まつり) ・「札幌夜景・夜間観光ガイドブック」での施設紹介 ・館内の英語版施設紹介ポスター掲出	さまざまな広報媒体を活用した情報発信に取り組み、施設及び主催事業の周知に努めた結果、主催事業チケット販売収益は計画値比11%増となった。今後もターゲットに合わせた広報媒体を選択しながら効果的な広報を実施し、施設及び主催事業等の周知を行う。 また、ホームページについては、ウェブアクセシビリティ適合レベルを維持するとともに、利用者のニーズを反映させた利便性の高いホームページ運営に努めていく。 加えて、今後のインバウンド需要の高まりに合わせ、引き続き観光客誘致の取組を積極的に行っていく。	テレビCMや地下鉄車内への広告掲出のほか、若年層への訴求力が高いソーシャルメディアやインターネットなど多様な情報発信に努めている。 また、公式ホームページは、バリアフリー化を進めるなど、利便性を高める工夫を行ったことで、前年度を上回るアクセス数を獲得しており、高く評価できる。 加えて、若年層を中心にKitaraアプリ会員の新規入会者数が大幅に増加したほか、特典を追加するなどスポンサー制度の見直しを行ったことで、複数のゴールドスポンサーの新規獲得に成功している。 以上のとおり、本市の要求水準を上回る管理運営が行われている。			

▼ 施設と主催事業に関する広報

(1) 多くの市民に届く広報展開

札幌コンサートホール及び主催事業を広く周知するため、多様な媒体を活用した広報活動を行った。

〈実施内容〉

①ホームページ、SNS (X、Instagram)

バリアフリーページの改修を行い、利用者の利便性向上を図った。また、ホームページ利用者の意見収集のためのアンケートでは、短時間で回答しやすいよう設問や内容等を見直した結果、回答数が大幅に増加した。なお、ウェブアクセシビリティは引き続き、適合レベルAA準拠を達成した。

- ・令和7年度ホームページ利用者アンケート回答数：143件 (参考：令和6年度 63件)
- ・令和7年度ホームページアクセス件数：927,187件 (参考：令和6年度 887,568件)

②公演情報誌「KitaraNEWS」

札幌コンサートホール主催事業の公演情報及び特集記事や公演カレンダーを掲載した広報誌を発行した。

発行部数：延べ138,000部 (6回発行)

③子ども向け広報

札幌市小中学校校長会、札幌市PTA協議会に協力を依頼し市内小中学校へのちらしを配布したほか、小学生を対象とした新聞への広告掲出を実施した。

- ・市内小学校へのちらし配布：11回
- ・市内中学校へのポスター配布：11回
- ・道内小学生全員に配布される新聞への広告掲出：2回

④その他

- ・テレビCM放映：4回
- ・ラジオ番組でのPR：12回
- ・地下鉄南北線平橋駅電照広告の掲出 (年間)
- ・地下鉄南北線車内ツインステッカー掲出：12回
- ・地下鉄南北線ドア横顔面ポスター掲出：2回
- ・地下鉄駅構内地下鉄ポスター掲出：24回
- ・SNS広告：7回

(2) 観光客誘致のための広報

世界屈指の音響を誇るホールの認知度向上を目指し、国内外の観光客に向けた広報を実施した。

〈実施内容〉

- ・市内で開催される観光イベントと連携した広報：3回 (さっぽろオータムフェスト、ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo、さっぽろ雪まつり)
- ・「札幌夜景・夜間観光ガイドブック」での施設紹介
- ・館内の英語版施設紹介ポスター掲出

テレビCMや地下鉄車内への広告掲出のほか、若年層への訴求力が高いソーシャルメディアやインターネットなど多様な情報発信に努めている。

また、公式ホームページは、バリアフリー化を進めるなど、利便性を高める工夫を行ったことで、前年度を上回るアクセス数を獲得しており、高く評価できる。

加えて、若年層を中心にKitaraアプリ会員の新規入会者数が大幅に増加したほか、特典を追加するなどスポンサー制度の見直しを行ったことで、複数のゴールドスポンサーの新規獲得に成功している。

以上のとおり、本市の要求水準を上回る管理運営が行われている。

▼ 財団他施設との広報連携

相互にちらしを配架することで情報発信の幅を広げた。
また、札幌市教育文化会館との連携事業「石山緑地新能」の上映会においては、当ホールでチケット販売を行い、KitaraClub会員に対して招待特典を設けるなど、相互協力の下、魅力発信及び来場者の促進を図った。加えて、KitaraClub会員への他施設公演ちらしの送付、芸術の森美術館入館料の優待割引の設置など、新たなファン層の拡大を図った。

他施設との広報連携により、クラシック音楽になじみのない層にも事業をPRすることができたほか、Kitaraファンに対しても他ジャンルの芸術分野に関心を持っていただくきっかけを作ることができた。

▼ ホールスポンサー制度

令和6年度にホールスポンサー区分及び特典の見直しを行った結果、スポンサーが増加した。

〈令和7年度スポンサー数〉

区分・協賛金額	令和6年度 (参考)	令和7年度
ゴールドスポンサー (協賛金100万円)	2社	5社
シルバースポンサー (協賛金50万円)	5社	3社
合計	7社	8社

ゴールドスポンサーの増加により、ホール運営の収支改善に寄与した。引き続き企業系広報誌など、的を絞った広報展開を実施し、新規スポンサー獲得を目指したい。

〈ホールスポンサー制度の周知〉

- ・広報誌「KitaraNEWS」への広告掲出：1回
- ・札幌商工会議所発行の会報誌「さっぽろ経済」への広告掲出：1回（新規）

▽ 専属オルガニストの配置

(1) 第25代オルガニスト

主催公演：4回 外部公演等：4回

(2) 第26代オルガニスト

主催公演：5回 外部公演等：2回

リヨン国立高等音楽院より推薦を受けた赤枝サンテソン留果を第26代札幌コンサートホール専属オルガニストとして採用し、ホールの主催公演や外部公演（市内、道外）への出演に加え、教育事業にも参画した。

ホールでの演奏のほか、小学校へのアウトリーチ、教会等での演奏会開催など、幅広い世代にオルガン音楽の魅力を伝え、オルガンの普及に貢献した。また、道外にも広く優れたオルガン音楽を紹介することができた。

▽ その他コンサートホールの管理業務に付随する一切の業務																						
▼ 会員組織の運営 札幌コンサートホールの会員組織である「KitaraClub（有料）」と「Kitaraアプリ会員（無料）」の運営を行った。 （１）KitaraClub（有料会員） 令和７年度会員数 ・個人会員：4,098名 ・法人会員：47社 〈参考〉令和６年度会員数 ・個人会員：4,141名 ・法人会員：45社 （２）Kitaraアプリ会員（無料会員） 令和７年度会員数：13,724名 令和６年度会員数：11,615名（参考） ▼ 中島公園連絡会 中島公園連絡会 中島公園連絡会を通じて市公園緑化協会や市みどりの推進部、公園周辺施設や近隣事業者と連携し、中島公園の魅力を広める取組としてInstagramの運営やコンテンツの制作に協力した。	高齢化により、平成28年度を境に減少傾向だった会員数が、令和６年度に増加に転じ、令和７年度も会員数を維持することができた。今後も特典内容を示した効果的な会員募集PRを行うことで、会員の増加を図る。 Kitaraアプリは若年層の会員が多いが、今後もKitaraClub入会特典のPRを行い、有料会員へ誘導していく。 中島公園の自然や歴史、文化といった魅力を総合的に発信する取組に協力することで、音楽ファンだけでなく、広く一般市民に施設をPRすることができた。																					
2 自主事業その他																						
▽ 自主事業																						
▼ 売店事業 売上高 7,600千円 ▼ 自販機事業 売上高 1,875千円 ▼ レストラン事業 Kitaraアプリ会員へのメニュー配信、月替わりメニューの提供及び主催事業来場者限定での当日利用割引などを行い、売上増加を目指すとともに、定期的に情報交換を行い、収益向上等について検討している。	売店、自販機事業は、ほぼ前年並みに推移しているが、レストラン事業は光熱水費、材料費及び人件費等の高騰に伴い、経営については厳しい状況が続いている。令和７年度も各種利用者増加策を実施したが、今後も収益改善に向け、レストラン、ホールで共に協力していきたい。 再委託業務の多くについて、市内企業を活用したほか、障がい者福祉施設よりグッズを仕入・販売することを通して、障がい者の活動を支援することができた。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">仕様書上の承認要件に基づき適切な自主事業を実施している。</td></tr><tr><td colspan="4">特にレストランで、月替わりメニューを提供するなど収益向上に向けた取組を行っていることは一定の評価ができる。</td></tr><tr><td colspan="4">また、市内企業や障がい者福祉支援施設を活用しており、本市が推進する施策に配慮した運営を実施していることは評価できる。</td></tr><tr><td colspan="4">以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td></tr></table>	A	B	C	D	仕様書上の承認要件に基づき適切な自主事業を実施している。				特にレストランで、月替わりメニューを提供するなど収益向上に向けた取組を行っていることは一定の評価ができる。				また、市内企業や障がい者福祉支援施設を活用しており、本市が推進する施策に配慮した運営を実施していることは評価できる。				以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
A	B	C	D																			
仕様書上の承認要件に基づき適切な自主事業を実施している。																						
特にレストランで、月替わりメニューを提供するなど収益向上に向けた取組を行っていることは一定の評価ができる。																						
また、市内企業や障がい者福祉支援施設を活用しており、本市が推進する施策に配慮した運営を実施していることは評価できる。																						
以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。																						
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等																						
▼ 再委託業務63件を市内に事業所を持つ企業に発注した。 ▼ 障がい者福祉支援施設よりオリジナルグッズを仕入、販売した。																						

3 利用者の満足度					
▽ 利用者アンケートの結果					
実施方法	利用者アンケートについては3部門で実施している。				
	▼ 一般来館者・施設見学会参加者 施設に関するアンケート用紙をエントランスホールに設置し、一般の来館者（演奏会入場者以外も含む）を対象として、来館目的や回数、ホールで聴いてみたい音楽ジャンル、施設への要望等について調査した。施設見学会でもアンケートを実施し、来館経験や見学会への参加理由を調査し、施設への興味関心等を把握した。 回答数209件 ▼ 貸館利用者 アンケートの回収率を高めるため、様式等について検討を重ね、アンケートの手渡し方法も改めて、令和8年3月からアンケート回収を再開した。 回答数18件 ▼ 主催公演入場者 公演時にアンケート用紙を配布するほか、プログラム等にQRコードを添付し、後日、WEBで回答することもできる方法を実施している。 回答数3,160件	A	B	C	D
	結果概要 利用者アンケートにおける各目標値は、回答数の3,700件、総合満足度80%、ホールスタッフの接遇に関する満足度80%と設定。 ▼ 一般来館者・施設見学会参加者 満足度は95.2%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接遇に対する満足度は94.7%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）であった。 ▼ 貸館利用者 満足度は100%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接遇に対する満足度も100%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）であった。 また、アンケート様式の変更により、回答数が大幅に増加した。（令和6年度 10件→ R7年度（3月のみ） 17件） ▼ 主催公演入場者 主催公演数の減少から回答数は減少したが、満足度は97.9%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接遇に対する満足度は97.5%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）であった。 ▼ アンケート回答数（総数）： 3387件 総合的な満足度は97.8%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）、ホールスタッフの接遇に対する満足度は97.3%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）の高評価で、いずれも指定管理の目標を上回っている。	回答数は目標値の約92%に留まったが、総合満足度・接遇に関する満足度は目標値に達成している。お客様からのアンケート結果は集計、データベース化し職員間で共有、業務改善や利用者対応の充実につなげたほか、運営協議会で報告し、各委員の意見も取り入れながら施設運営に反映させている。令和8年3月に様式、方法等を変更した貸館利用者からの回答数が増加したことで、お客様の率直なご意見を伺うことができるようになり、今後の施設運営について有効と考えている。 施設の総合的な満足度、ホールスタッフの接遇に対する満足度ともに90%を超え、目標値である80%を大幅に上回っている。また、回答数は目標値（3,700件）を下回っているものの、アンケートの様式や回収方法の見直しなど回答数の向上に向けた取組を行っている。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
利用者からの意見・要望とその対応	貸館利用者からはソフト・ハードの両面を含めた当ホールの環境に対し、高評価の声をいただいている。引き続き保守点検によるホールの性能維持及びお客様サービスの向上に努めたい。				

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R7年度計画	R7年度決算	差(決算-計画)
収入	943,744	1,000,844	57,100
指定管理業務収入	897,081	954,155	57,074
指定管理費	607,954	634,516	26,562
利用料金	174,418	187,922	13,504
その他	114,709	131,717	17,008
自主事業収入	46,663	46,689	26
支出	990,067	990,478	411
指定管理業務支出	948,663	952,616	3,953
自主事業支出	41,404	37,862	▲ 3,542
収入-支出	▲ 46,323	10,366	56,689
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 46,323	10,366	56,689

▽ 説明

▼収入増加に伴う収支の大幅な良化

(1) 指定管理業務収入における指定管理費について、令和7年4月～令和8年3月の光熱費の高騰および人件費の上昇による管理費の改定により、26,562千円の増加となった。

(2) 指定管理業務収入における利用料金収入については、ホールでの貸館件数が増加したことを受け、大ホールの施設利用料金が計画よりも6,991千円増加したほか、リハーサル室のWEB予約の定着により利用が増加し計画よりも2,429千円増加するなど、合計で計画対比13,503千円増加した。

指定管理業務支出については、大幅な光熱費及び人件費の増加があったにもかかわらず、消耗品購入の抑制、広告媒体の変更、印刷発注の自前化等、全般的に支出の抑制に努め、計画対比で411千円の増加に抑えることができた。

▼ 自主事業収入については、おおむね計画通りの収支となった。

▼ 指定管理業務支出については、消耗品購入の抑制、広告媒体の変更、印刷発注を自前化等、全般的に支出の抑制に努めたが、光熱費及び人件費の高騰が響き、計画対比で411千円の増加となった。

▼ 自主事業支出については、商品の仕入れと消耗品の購入量、修繕箇所が想定よりも少なかったことから、商品購入費が1,338千円、消耗品費が1,205千円、修繕費が1,123千円の減少となり、計画対比で3,542千円の減少となった。

施設利用の観点では、大・小ホールとも利用率が若干低下したが、収益率の高い貸館件数が増加したこと、リハーサル室のオンライン予約の浸透による利用率の上昇から利用料金の増加に繋がっている。事業の観点ではアンケート結果を踏まえて、市民ニーズを取り込んだ公演の企画及び広報媒体の効果測定を加味した広報媒体の選定、また、専属オルガニストの活用によるオルガン音楽の普及事業の継続実施等によりチケットの売上が好調となったこと等から、収入を大幅に増加させることができた。支出においては、人件費や光熱費の高騰を踏まえ各種費用の節減を図るため、費用対効果の検証及び事務手順等の見直しを進め、費用の圧縮に努めた結果、計画より収支状況を大きく改善することができた。

A B C D
人件費の高騰による委託費の増加などに伴い、令和7年度計画では赤字額を46,323千円と見込んでいたが、光熱水費の増額分の補填として指定管理費が増額されたほか、利用料金収入の増加や主催事業のチケット収入が好調だったことにより、収支は黒字化した。よって、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われていると見え、今後も広報宣伝費の削減など経費節減を継続して行うとともに、市民のニーズに沿った主催事業を行うなど収入の安定化を図り、収支均衡に向けた収入確保に一層努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持 当財団の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。		適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対処した。 ▼ 情報公開請求はなかった。 ▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。 ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
第5期指定管理期間3年目にあたる令和7年度は、第5期（令和5～9年度）指定管理協定書及び当財団の中期経営計画の重点事項達成に向け、施設の管理及び事業の実施を行った。 【施設管理】 管理運営業務については、新施設予約システムの導入により利用者の利便性向上を図ったほか、利用者に対し施設利用料金等の改定及び令和10年から予定されている大規模修繕に伴う長期休館について、迅速かつ丁寧な説明・案内を行い、円滑な情報提供に努めた。 施設の安全確保については、防災訓練の実施、防火管理委員会の開催による職員のスキル、安全意識の向上を図ったほか、個人情報の取り扱いに関するコンプライアンス研修を強化する等、職員の管理運営に対する意識の向上に取り組んだ。 収支面では積極的に収支改善に取り組み、増収策としては利用料金収入及びチケット販売の強化、支出では様々な業務の見直し等を図り各種費用の削減を行うことに努め、大幅な収支改善を実現し当初の赤字予算を黒字化することができた。 また、ワークライフバランスの観点から職員の時間外労働の抑制にも取り組み、ノー残業デーの徹底等を通じて時間外労働時間の減少を実現し、労働環境の向上に努めた。	第5期（令和5～9年度）指定管理期間の後半にあたる令和8、9年度も、引き続き指定管理協定書及び当財団の中期経営計画の重点取組項目達成に向け、管理・事業の推進に取り組む。 【施設管理】 管理運営業務については引き続き安全性の確保を最優先としつつ、新システムを活用して利用者の利便性向上を図るほか、貸館利用率及び利用料金収入の増加を目指し、収支相償の経営を目指していく。 また、令和7年度末から導入した新たな利用者アンケート徴取方法により、アンケートの回収率上昇に取り組み、利用者の声を管理運営に反映させていく。 施設の安全管理においては、防災訓練や各種研修を継続的に実施し、職員の対応力や安全意識の向上、施設の安全性の確保に引き続き取り組む。 施設管理においては、電気・ガス等の使用量を適切にコントロールすることで環境への配慮を推進するとともに、高騰する光熱費等の圧縮を図っていく。 令和8年度は開館からの来場者数1,000万人の達成が見込まれることから、記念イベント及び施設のPR等を実施し、施設の認知度向上と利用促進につなげる。 また、令和9年7月にはホールが開館30周年を迎えることから、市民に当ホールが「わがまちのホール」として愛着を感じてもらえるような記念事業の実施に向け、検討を進める。

【主催事業】 事業の実施については、指定管理計画書に基づき、世界で活躍するトップクラスの演奏家による質の高い公演から、市民のニーズを踏まえた新たなクラシックファン層の開拓につながる多彩な公演を行い、幅広い層の市民へ音楽鑑賞の機会を提供できたほか、経費削減及び収入増加による収支改善も図り、計画通り実施することができた。 新たに道内の公共ホール3館と連携した北海道ツアー公演の実施により、道内における音楽の普及・振興にも貢献することができた。 また、当財団が策定した中期経営計画の重点取組項目の実現にも注力し、財団他施設との連携事業では、札幌芸術の森野外美術館の作品をテーマとしたピアノコンサートを開催し、美術と音楽の融合による相乗効果を生み出すことで、双方の施設のファン層の拡大につなげることができた。 子どもたちの感性を伸ばし引き出す取組では、未来を担う子どもたちが成長段階に応じて継続的に文化芸術に触れる機会の創出を図ることができた。 未就学児や障がいのある子どもを対象とした社会包摂事業では、「子どものためのKitara参加型音楽会」において、新たに市内音楽家や大学生を対象とした音楽家育成ワークショップを開催するなど、次代を見据えた事業の推進を図ることができた。 令和7年度は、市民ニーズを的確に捉えた魅力的な企画の実施に加え、交通広告、ラジオ番組、SNS等を活用し、幅広い層へのアプローチを積極的に行った広報戦略が奏功し、前年度より完売する公演が増加する等、多くの市民に音楽芸術を提供することができた。	【主催事業】 事業については、指定管理者選定時に示した重点取組項目に基づき、社会包摂を意識した事業及び子どもたち、若手アーティスト等、次世代を担う人々の育成事業などに積極的に取り組んでいくほか、一幅広い層が気軽に音楽を楽しんでいただける多彩な事業を展開していく。 令和8年度も継続して収支の改善に尽力し、効果的な広報活動やチケット販売の促進、新規スポンサーの獲得に努めるほか、費用対効果を十分に精査した効率的な支出を徹底し、健全な事業運営を推進していく。また、令和9年度の30周年記念事業の検討の進め、周年にふさわしい、市民が望む魅力的な企画を実現できるよう努めていく。
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営がなされている。 施設管理においては、施設予約システムの導入による利便性向上や、大規模改修工事に伴う休館及び利用料金改定に関する利用者への迅速な情報提供など、丁寧な対応が行われた。 各主催事業では、道内各地のホールと連携した公演を主導して開催し、音楽文化の振興に貢献した。また、効果的な広報活動により主催事業のチケット収入が好調であったほか、施設利用者の満足度が高水準を維持している点も高く評価できる。 さらに、収支状況においては、利用料金・主催事業のチケット収入などが総じて計画より増となり、自主事業支出を抑え黒字に転じたことは評価できる。 今後も安定した経営状況の継続のため、経費削減や施設稼働率の向上を図り、更なる収支良化に努めていただきたい。 また、スポンサー制度の情報発信を積極的に行い、スポンサー確保に向けても引き続き努力されたい。	大小ホールの稼働率及び施設の総入場者数は、計画値及び要求水準ともに未達の状況である。改めて、新たな施設予約システムを活用し、利便性の向上を図るとともに、より創意工夫ある事業の展開に努めていただきたい。 また、「Kitaraアプリ会員」（無料）は増加傾向にある一方、「KitaraClubの個人会員」（有料）が減少傾向にあるため、特典内容を見直し魅力向上を図った上で、効果的なPRを行うなど、有料会員増に向けた取組を一層強化していただきたい。 引き続き、クラシック音楽等に触れる機会が少ない市民にも親しみやすい事業を実施し、若年層や新規鑑賞者の獲得に努めていただきたい。